

「全鍍連」 2017年 3月号 巻頭言

全鍍連情報・国際委員長 島田 博雄（東邦メック(株) 代表取締役）

「伊達政宗と青葉城」



仙台のご当地ソングといえば「青葉城恋唄」ですが、この歌はさとう宗幸が 1977 年に作曲しました。当時さとう宗幸は全国では無名であったため、翌 78 年にダークダックスと競作となりました。その年の 6 月 1 日に起きた「宮城県沖地震」の復興の意を込めた唄として、また仙台駅で特急列車の到着ソングとして使用され、さとう宗幸の唄として全国に広まりました（現在も東北新幹線仙台駅の発車ソングとして使われております）。

その青葉城は 2003 年に史跡「仙台城跡」として登録されたため現在はマスコミを中心に「仙台城跡」として呼称することが多いのですが、地元では青葉山にあるお城と言う事で「青葉城」の名で親しまれております。

青葉城は伊達政宗が関ヶ原の戦いの後、1601（慶長 6）年に築城を着手し 1603 年に入城しました。青葉山の丘陵に築かれ、東側は広瀬川を望む約 64 メートルの断崖、西側は深い森林、南側は竜の口溪谷で囲まれた天然の要塞であり、そこに本丸と西の丸が配置され広さは約 2 万坪あります（二代城主伊達忠宗の期に二の丸、三の丸が造営されました）。典型的な山城であったが天守閣は築かれませんでした。それは戦国時代も終わりの時期であり、徳川家康への配慮があったからと言われております。天守閣の代わりに作られた本丸御殿は約 430 畳の広さで、大広間や天皇家、将軍家を迎える上々段の間があり、各部屋は狩野派の絵師により華麗な障壁画が施されておりました。ただ天皇家や将軍家が訪れた時にのみ開かれる御成門や上々段の間は一度も使われることはありませんでした。一説には天皇を迎え、天下を取るために用意しておいたと言われております。広瀬川を見下ろす断崖には清水寺のように迫り出すように作られた懸造の眺瀛閣（ちょうえいかく）が張り出して建っていたとされており、その場所は今でも仙台の街が一望できる観光スポットになっております。本丸の石垣は切込接と呼ばれる積み方を用い、隅石表面には「江戸切」と呼ばれる技法により加工されております。本丸石垣の修復工事の際の発掘調査で時代の異なる石垣の存在が確認され、過去に数度の修繕が行われたことがわかっております。

伊達政宗は 1584（天生 12）年、17 歳で家督を相続し伊達家 17 代当主となりました。家督を相続したときは米沢城（米沢市）が居城であるが、黒川城（会津若松市）からまた米沢城に移り、岩出山城（宮城県大崎市）を経て仙台城に移り住んでおります。時の政権、秀吉、家康による領地の転封で転々としたのです。

地元仙台に生まれ育つと自然と郷土愛が生じるものですが、その地での歴史、文化は年を取るにつれ興味が増してきます。仙台にお越しの際はぜひ広瀬川を渡り「青葉城」から仙台の街を眺めてみてください。天気の良い日は遠くに太平

洋も見えます。